8. 広報•普及啓発活動

1. はじめに

大型放射光施設 SPring-8 が学術の発展や産業の振興にいかに貢献しているかについて国民の理解を得るとともに、放射光利用者の裾野の拡大に資するため、広報活動を通じた的確な情報発信は極めて重要である。

2014年度に引き続き、放射光利用の研究成果、利用者の支援活動、施設の運転状況、各種イベント開催など、SPring-8における活動情報の分かりやすく、タイムリーな発信に努めた。

2. マスメディアへの情報発信

2-1 プレス発表

SPring-8を利用した研究成果や施設公開といったイベント情報などを東京、大阪及び地元兵庫のマスメディアに対して発信した。2015年度における理研とJASRIを合わせた発表件数は55件であった。

2-2 取材対応

SPring-8で行われる、新聞、テレビ、雑誌等といったマスメディアによる取材対応を行った。電話での取材を含め、2015年度の取材件数は10件を数え、その内訳は、新聞・オンライン記事5件、雑誌や社内報など出版物・PR動画4件、テレビ・ラジオ1件であった。

3. 広報資料の制作

広報資料として、SPring-8 NEWS (和文)、SPring-8 パンフレット (一般向け (和文・英文)、詳細版 (和文))、SPring-8産業利用成果集 (和文・英文)、SPring-8学術成果集 (和文・英文)、SPring-8関連の写真、研究成果などの各種パネルなどを制作または配布した。

SPring-8 NEWSは、SPring-8の活動を広く知ってもらい、研究成果などを分かりやすく紹介するとともに新規利用者開拓を目的とする隔月誌である。2015年度も奇数月毎に年6回発行した(図1)。

SPring-8では、国際結晶学会 (IUCr) が年6回発行する論文誌「Journal of Synchrotron Radiation」に SPring-8の施設情報を2004年以来毎号掲載し、SPring-8の広報活動のみならず放射光科学の普及に貢献している。 2015年度は、SPring-8で得られた研究成果5件並びに SPring-8で行われた行事 (Three Way Meeting 2015)を1件紹介した。



図1 SPring-8 NEWS誌No.82の表紙。

4. ホームページの管理運営

SPring-8において、ホームページを活用して利用者支援から一般向け広報に至るまで、幅広い情報を提供している。2015年度は、編集委員会を1回開催、また、メール審議を3回実施し、SPring-8ホームページにおける検討事項の摘出及びその対策について検討を行い、コンテンツの充実等を図った。研究系職員データベースについては、メールアドレスを公開しなくても研究者に連絡が取れるようシステムの改修を行った。

一般向けコーナー「光のひろば」については、内容をより充実し、広く一般の方々に対し「SPring-8がどのような施設で、どのように活用されているのか」を理解していただけるよう、コンテンツの整備を継続して行った。「SPring-8研究者インタビューシリーズ」では、SPring-8を利用して最先端の研究分野で優れた成果を創出している研究者の言葉や素顔を伝える動画をYouTubeを活用して掲載している(図2)。2015年度には、

野村 龍一 東京工業大学 研究員 戸田 裕之 九州大学 教授 阿部 善也 東京理科大学 助教 の3人の研究者に出演していただいた。

SNS (Social Networking Service) を活用した広報 展開として、SPring-8からの情報発信力を向上させるため、研究成果及び学術会合ページにFacebook、Twitter ボタンを設置し運用している。2015年度のSPring-8ホームページアクセス数は、ユーザーの延べ訪問回数であるセッション数が1,013,005件、ユーザーがページを閲



図2 SPring-8ホームページー般向けコーナー「光のひろば」の「研究者インタビューシリーズ」。SPring-8を利用して最先端の研究分野で優れた成果を創出している研究者の言葉や素顔を伝える動画をYouTubeのSPring-8 Channelに掲載。

覧した回数であるページビュー数が2,340,559件であった。これらを1日あたりに換算するとそれぞれ2,755件、6,412件となる(2014年度は1日あたりそれぞれ2,888件、7,415件)。

5. 見学者の受け入れ

SPring-8及びSACLAを約1.5時間で案内する予約見学ツアーを標準としつつ、申込者からの要望を踏まえ、それぞれに最適な案内・説明を行うよう努めた。

2015年度の見学者数は、施設公開を除いて10,904人であった。これまでの見学者の推移を図3に示す。

6. 広報行事

6-1 施設公開

科学技術週間にちなんで、キャンパス内の各機関の協力を得て、23回目となるSPring-8施設公開を理研とJASRIの共催により開催した。来場者数は5,634人であった。SPring-8、SACLAの施設・装置の公開、パネル展示、



図4 第23回SPring-8施設公開(2015年4月26日)

科学講演会の開催(4テーマ)、大人から子供まで幅広い年齢層が体験できる実演・実験コーナーの設置等、各機関・施設の活動状況やSPring-8、SACLAから創出された成果をアピールできる良い機会となった。(図4)。

6-2 出張授業

出張授業は、SPring-8の研究者などが小中高等学校に 出向き、科学技術についての実験を含めた授業を行うも ので、1999年度から実施している。

2015年度は、2015年7月13日に兵庫県立佐用高等学校、 12月3日に佐賀県鳥栖市内の中学校・高等学校に理研の 研究員が出向き、講義を行った。

6-3 展示会・イベントへの出展

SPring-8の活動や現状・動向を紹介するため、日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム(2016年1月9日~11日、東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト・柏の葉カンファレンスセンター・オークビレッジ柏の葉)でポスター展示を行った。

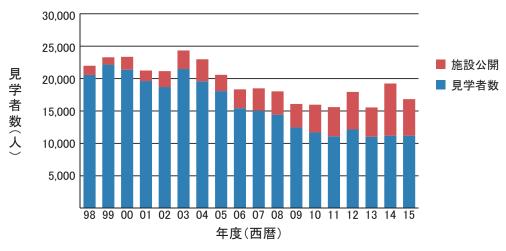


図3 見学者数の年次推移



図5 サイエンスフェアin兵庫(2016年1月31日、神戸市)へ の出展

また、兵庫県内の高校生・高専生を対象とした、第8回サイエンスフェアin兵庫に出展し、理研関西地区内各センター(放射光科学総合研究センター、ライフサイエンス技術基盤研究センター、多細胞システム形成研究センター、HPCI計算生命科学推進プログラム、生命システム研究センター、計算科学研究機構)及び本部広報室と協力体制を組み、パネル展示並びに液晶パネルによる施設概要紹介、説明員による研究内容の解説を通して、SPring-8や放射光の理解増進に努めた(図5)。

7. 普及啓発

SPring-8の更なる利活用拡大のための普及・啓発活動としてSPring-8シンポジウム(2015年9月13日~14日、福岡)、SPring-8文化財分析技術ワークショップ2015(2015年11月6日、東京)等のワークショップを開催した。

また、萌芽的研究支援課題を実施した学生に対し、研究成果発表の機会を提供しつつ、放射光先端活用を開拓する契機を与え、将来の放射光科学を担う若手研究者の育成を促進するために、萌芽的研究支援ワークショップ(2015年11月9日、東京)を実施するとともに、大学生、大学院生の若手研究者を対象に、SPring-8における最先端の研究の紹介と放射光利用技術の習得を目的として、SPring-8夏の学校(2015年7月5日~8日)を実施し、若手研究者の育成を図った。

さらに、放射光の有用性を浸透させ、新たな利用者及び利用研究分野を開拓するために、産業利用を目的としたXAFSデータ解析講習会2015 (2015年8月6日)、産業利用に役立つXAFSによる先端材料の局所状態解析2016 (2016年1月28日~29日、東京)を実施するとともに、放射光利用実体験及び放射光実験機器基本操作の習得等を目的とした実地研修会(HAG法によるタンパク質結晶回折実験,硬X線光電子分光測定研修会他)を6回開催した。

加えて、日本文化財科学会(2015年7月11日~12日、

東京)、応用物理学会(2016年3月19日~22日、東京)、 日本生物物理学会(2015年9月13日~15日、石川)、 日本化学会(2015年10月14日、東京)他に展示ブース を出展、並びに説明を行った。

8. まとめ

これまで述べたように、SPring-8における活動や放射 光科学の普及・啓発に関して、種々の手段により分かり やすい情報発信に努めた。引き続き、さらに効果的・効 率的でタイムリーな情報発信に取り組んで行く。

> 理研 放射光科学研究推進室 JASRI 利用推進部 普及啓発課